

④ 茶路(サロン) レインボー

国道259号を田原方面に向かい、老津の信号を右折すると「茶路(サロン) レインボー」がある。レインボーは平日の午前中に開いており、近所の方が気軽に立ち寄り、集まり、好きなだけ居られる喫茶店形式の「居場所」だ。開設したのは柵木(ませぎ)早苗さん(80)。長く小学校の先生だった早苗さん。同じく教職の道歩んできた。

主人が「昔は各家に縁側があって、そこに腰を掛け話の花が咲いていたのが懐かしい。気軽におしゃべりできるところが欲しい」と、店を閉めて取り壊し寸前の薬局店を買い取り、開設した。高齢者に輝いて欲しいからと「レインボー」と名付

温かい人間関係が作る気軽な立ち寄り所

けた。早苗さんがたまたま、その意思を張ってきた。継いで早苗さんが頑

もあって、380円のモーニングセットを用意して喫茶店形式の「居場所」になった。それを見届けるかのように早苗さんのご主人は5年前に亡

くなり、その意思を張ってきた。継いで早苗さんが頑

に住む中村弘子さん(83)。「亡くなられたご主人と老人クラブで一緒でしたので、何とかお手伝いしたくて」と中村さん。

スタッフとして支えてきたのは、向かい

2人に共通するのは「地域のために役にたきたい」という熱い気持ち。そんな気持ちに近所の人たちも野菜や、お土産をもってきたりして温かい人間関係が

できている。近所の方がほとんどなので、良い話も悪い話もすぐに広がってしまっているのでおしゃべりにもルールが決められている。「人のことは言わない。息子はけなしても、お嫁さんはほめよう」。

「みんなとお話しているのが楽しみ」と今日も、「レインボー」には地域の高齢者が集まってくる。

「みんなどお話しできるのが楽しみ」と今日も、「レインボー」には地域の高齢者が集まってくる。

おたがいさまの
まちづくり



今日も話に花が咲き笑顔あふれる「茶路レインボー」

※次回は6月1日
掲載予定
(伊藤秀昭)